

令和元年度主催事業「パワーキャンプ」事業報告



事業について

「鍛ほめ福岡メソッド」を取り入れた自然体験活動を通して、自然の偉大さや自然体験活動の楽しさを感じさせるとともに、自律心や規範意識、コミュニケーション能力等を高めることを目的としています。

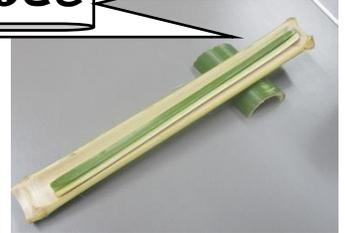
期日：令和元年10月19日～20日 対象：小学5・6年生 24名 開催場所：英彦山青年の家周辺

1日目

2日間の目標は、「全員で登頂、全員でゴールすること」



バーベキュー用の箸・コップ・器を竹で作ろう！



竹をどのように切ったら食器になるのかを仲間と話し合いながら作りました。のこぎりを使って竹を横に切ることでコップにし、なたを使い竹を縦に割ることで、お皿や箸にしていました。竹の節を利用し、1つのお皿で肉とご飯の両方が楽しめる工夫をした班もあり、感心しました！余った材料で箸置きを作る発想もすばらしかったです。



仲間と協力し、テントをたてよう！



テント班の仲間とテント設営です。たて方を教わった後、仲間と声をかけ合いながら息を合わせてたてました！外が冷えたので、体育館泊になったのは残念だったようです。



山で材料を集めてかまどを作り、バーベキューをしよう！



夕食づくりに向けて、火おこしの練習です。まず、火種がつきやすいよう麻ひもをほぐし、山で拾った杉の葉の上にのせます。そして、ファイヤースターターで火花を散らし、火をおこしました。難しい作業なので、なかなか火はおきませんでしたが・・・何度も何度も挑戦し、ついに火がおきると仲間から歓声があがりました！！わずかにおきた大切な火を、竹の火吹き棒で空気を送りながら勢いを強めていきました。



次は、かまどづくりです。使えそうな物を山から集めてきました。石を集めてかまどをくむ班もあれば、濡れた木を集め、石と組み合わせながらかまどをくむ班もありました。かまどができたところで、火おこしの学習を生かし、白米を炊いていきました。



調理担当は、肉や野菜を包丁で一口サイズに切りました。準備が整ったところで、いよいよバーベキューの開始です。薪木を増やしたり減らしたりして火加減を調整しながら、肉や野菜を焼いていきます。焼きあがった食材は、竹で作った食器にのせて食べました。「とてもおいしい」という声があちこちからたくさん聞かれました。



食べているうちに外は暗くなりました。デザートに、焼いたマッシュマロとチョコをビスケットにはさんで食べました！真っ暗な中、仲間と火を囲み、おいしいものを食べるのは最高でした！

バーベキューの後は、ボランティアやまびこさんのパネルシアターを見ながらゆったりとした時間を過ごしました。演出の多彩さに驚いていました！

みんなで盛り上がるレクを考えよう！



1日の最後に「キャンドルの集い」を行いました。「暗闇フェスタ」と名づけ、レクの内容は事前に子ども達が話し合って考えました。ヘッドライトをつけながらした宝物探しや飛んだ飛んだゲーム、パブリカダンス、マイムマイムなど、どれもみんなで盛り上がることができました！

2日目



目指せ全員登頂、全員でゴール！英彦山登山！



2日目。このキャンプ最大の目標である「全員登頂」を目指して登山開始です。出発前に円陣を組んで気合いを入れました！子どもたちは、昼食（カップ麺）用のお湯と1リットルのお茶が入ったリュックを背負い、険しい山道や石階段を歩き続けました。前日の雨で足場がぬかるみ、いつもよりもパワーが必要な登山となりました。



そして、登り始めること約3時間。見事全員が登頂しました！！登っている途中では「きつい」という声もたくさん聞かれましたが、本当によく頑張りました。昼食の温かいカップ麺もおいしかったと思います。往復6時間の登山となりましたが、全員がやり遂げることができました！！



キャンプを終えて・・・

このキャンプでは、子ども達の自主性を重んじ、仲間と話し合いながら課題解決する姿を大切にしました。活動中、子ども達が試行錯誤をし、何度も挑戦している様子が見られました。うまくいかなくても大人は手を貸してくれませんが、仲間と知恵を出し合いながら課題を解決していた場面が多く見られました。そのため、竹で作った食器もバーベキューのかまども、キャンドルの集いのレクも、子ども達の工夫であふれたものができました。このような活動を通してチームワークを築きあげることができたからこそ、最大の目標である「全員で登頂、全員でゴール」を達成することができたのではないのでしょうか。

この2日間、子ども達のたくさんの発想に驚かされ、一生懸命努力する姿に心が熱くなりました。参加者のみなさん、また英彦山の自然を満喫しに来てください。そして、子ども達の活躍を温かく見守ってくださったボランティアやまびこのみなさん、大学生のみなさん、本当にありがとうございました！